



地方創生の推進

肥後銀行との包括連携協定締結式



▲土山取締役専務執行役員(左)と中村市長(右)

11月1日、市役所鏡支所で肥後銀行との包括連携協定締結式が行われました。この協定は地方創生の実現に向けて、それぞれの資源や機能などを活用しながら、インバウンド対策や農業振興など幅広い分野で協力し、持続可能なまちづくりの推進を目的として締結されました。同行の土山取締役専務執行役員が「弊行のノウハウ、ネットワークを活用して取り組みたい」と意気込むと、中村市長は「連携することで10年、20年を見据えた地方創生を確実に進めることができます」と話しました。

食関連事業者の連携・販路拡大に

八代市食関連産業マッチング交流会



▲多くのパイヤーが訪れ商談が行われました

10月30日、やつしろハーモニーホールで「2019 Food Valley 八代市食関連産業マッチング交流会」が行われ、八代市、氷川町、芦北町の32の食関連事業者が参加しました。これは食関連事業者同士の情報交換や交流、パイヤーなどの商談の場を提供することにより、事業者同士の連携や販路の拡大に寄与するために開催。会場内のブースには、事業者が持参した64品が並べられ、出展者同士での情報交換や、パイヤーとの商談が行っていました。

バドミントン世界一おめでと

インターハイ、世界ジュニア大会優勝



▲二つの金メダルを手にする郡司莉子さん(右)

10月30日、郡司莉子さん（八代白百合学園高校2年）が市役所鏡支所を訪れ、中村市長に全国高等学校総合体育大会と世界ジュニア選手権大会シングルスでの優勝を報告しました。世界ジュニア選手権大会の日本人の優勝は、平成25年・26年に連覇した山口茜選手（現・再春館製薬所）以来の快挙です。郡司さんは「世界ジュニア選手権でも苦しいときに諦めずにプレーできたのは高校生活での成長のおかげだと思う。パリオリンピックでは金メダルを取りたい」と目標を語りました。

茶の湯の名品が八代に

博物館秋季特別展覧会



▲説明を聞き鑑賞する来館者

10月25日、秋季特別展覧会「ものふと茶の湯」利休から織部・忠興・康之へ」が市立博物館で始まりまし。この展覧会は安土桃山時代に豊臣秀吉や千利休らの活躍によって、戦国大名や武将たちの間で空前のブームとなった茶の湯をテーマに、室町時代・江戸時代の茶碗や水指、茶入など約90点を展示しています。初日の開会式では、関係者によるテーブルカットが行われ、来館者は学芸員の説明を熱心に聞き入りながら展示物を鑑賞しました。

多くの人が利用しやすい場所に

コワーキングスペースワークショップ



▲話し合いでは活発な意見交換が行われました

10月21日、本町1丁目の空き店舗で第2回コワーキングスペースワークショップが行われました。コワーキングスペースとは事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行うことができる施設です。第1回の同ワークショップで出た意見をもとに熊本高等専門学校の生徒がバースと図面を作成。それについて参加者の同校生徒や商店街関係者などが、もっと訪れたい場所にするためにはどうしたらよいか意見を出し合いました。

石垣がきれいに

八代城跡石垣の除草作業



▲手が届かないところは高所作業車を使用してきれいにしました

10月21日、九電グループの社員など約40人が国指定史跡八代城跡北の丸石垣の除草作業を行いました。これは、同グループが地域の誇りである文化財の美化に貢献したいとの思いからボランティアで行っているもので、今回で51回目です。参加者は日頃の高所作業技術を生かし、石垣に生えた草を鎌で丁寧に刈り取りました。3時間の作業で2トントラック約20台分の草が刈り取られ、石垣はすっきりとしたきれいな姿になりました。

次世代につながる

ちびっこ妙見祭



▲親ガメと同じく子ガメも5人で担ぎます

11月10日、ちびっこ妙見祭 in 本町アーケードが開催され、子どもたち約150人が本町アーケードからやつしろハーモニーホールまでの約1.2キロメートルを練り歩きました。子供笠鉾や子ガメなどの行列がやつしろハーモニーホールを目指して出発し、子どもたちの「ほいほい」と元気のいい掛け声が辺りに響き渡りました。アーケードのイベント広場やハーモニーホールでは、大人顔負けの演舞を披露し、訪れた観客からたくさんの拍手が送られました。

日頃の練習の成果を発表

第34回八代市文化祭舞台発表



▲箏曲で飛騨によせる三つのバラード

11月2日、3日、やつしろハーモニーホールで「第34回八代市文化祭」の舞台発表が行われました。同文化祭は、9月3日の書道展を皮切りにスタートし、写真展や美術展、松浜軒での合同茶会などを開催。舞台発表では、日舞、洋舞、詩吟、器楽などに子どもから大人まで約450人が参加し、参加者は日頃の練習の成果を發揮しようと、精一杯歌ったり踊ったりしていました。また、同日は盆栽や生け花なども展示され、来場者は立ち止まり、じっくりと鑑賞しました。

食品製造設備強化と生産能力向上

高見商店との立地協定調印式



▲高見代表取締役社長(左)と中村市長(右)

本市に本社を置く高見商店が、食品製造設備の強化と生産能力向上を目的とした工場の移転増設を行うことから、11月1日に市役所鏡支所で本市と立地協定を締結しました。同社は、からしれんこんや野菜の加工製造を行う会社で、新工場では、野菜の加工・貯蔵設備を整備し、県産農産物のカット野菜の製造に加え、他社によって作られた製品を自社のブランドとして売るOEM商品にも取り組む予定です。また、来年4月の新工場稼働に伴い八代から新しく5人の採用を予定しています。

たくさんの思い出を八代で

北海市青少年友好訪問団、八代市訪問



▲和服着付け体験の様子

10月28日から31日までの4日間、中国・北海市から「北海市青少年友好訪問団」が本市を訪れ、県立八代中学校での英語授業や博物館視察、ホームステイなどを体験しました。31日には市役所鏡支所を訪れ、中村市長を表敬しました。訪問団を代表して占宗霧さん（16歳）は「一番関心したのは、ごみの分別で、日本のリサイクル技術の高さに驚いた。ホームステイ先では家族の一員として接してもらい、最後まで充実した旅を送ることができた」と笑顔で感謝を述べました。

いよいよ開幕 会場で応援しよう

熊本に国際スポーツイヤーがやってくる



▲それぞれの国を精一杯応援します

11月30日に開幕する2019女子ハンドボール世界選手権大会を盛り上げようと開幕30日前イベントが10月27日にイオン八代店で開催されました。イベントでは大会特別サポーターを務める松中信彦さんやオムロンハンドボール部ピンデイズの選手によるトークショーなどがありました。また、小学生や高校生による一校一運動6カ国PRステージでは、各校の生徒らが八代で試合を行う各チームの特徴や注目選手を紹介し、大会の魅力をアピールしました。

来て・見て・学ぼう

エコエイト環境フェスタ



▲「八代さかな祭り」ブース

10月26日、エコエイトやつしろで、「エコエイト環境フェスタ」が開催されました。昨年7月から稼働を始めた同施設と、今年7月に開放した「緑地広場」を、広く知ってもらうと共に環境保全への関心を高めることを目的に開催。同施設見学や鮎のつかみどり、マルシェなどがあり、家族連れなど約2000人が来場しました。また、同会場内では「八代市環境美化推進善行者表彰式」と「くま川ごみゼロポスターコンクール表彰式」が行われました。